

財政政策の効果は何故下がったのか？ —Logistic Smooth Transition VAR モデルによる検証—

江口 允崇¹

平賀 一希²

2010 年 1 月 22 日

概要

本稿では、1990 年代以降に財政政策の効果が下がった要因について、スムーズな構造変化が発生し、財政政策の効果が時変することを考慮した Logistic Smooth Transition VAR (LST-VAR)モデルを推定する。LST-VAR モデルを用いることで、財政政策(本稿においては公共投資)の効果が低下するような構造変化が存在したか、また構造変化は何によって引き起こされたか、について分析できる。導入段階として、構造変化を引き起こすスイッチ変数の候補として、公債残高を用いて推定した結果、財政政策が生産や消費に与える効果を変化させるような構造変化が存在し、かつ公債残高が増加することによって財政政策の効果が変化したことが示唆される。

Keyword: 公共投資、非ケインズ効果、構造変化、Logistic Smooth Transition VAR (LST-VAR)モデル、

¹ 慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程 masataka-eguchi@hotmail.co.jp

² 慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程、経済学部助教(研究) kazukihiraga7041@gmail.com